

令和4年度 第3回生駒市行政改革推進委員会 会議録

開催日時 令和4年12月8日(木) 午前10時～午前12時

開催場所 生駒市コミュニティセンター 404会議室

出席者

(委員) 森委員長、高山副委員長、稲山委員、森岡委員、松山委員

(事務局) 知浦行政経営課長、岡田行政経営課課長補佐、島田行政経営課経営係主任

(欠席者) 松岡委員、新子委員、田中委員

(傍聴者) なし

1 開会

2 案件

前期行動計画の取組状況の確認について

(事務局) 【資料1について説明】

(委員長) 本日は、報告書の4ページと34ページを中心に審議していく。まず4ページについて、何か意見はあるか。

(委員) コロナ禍の問題についてだが、令和2年度と令和3年度では、コロナに対する市の対応に違いがあったと思う。令和2年度は、とても慎重に対応し、全てのイベントや会議等が中止になったが、令和3年度は、コロナの状況も踏まえつつ、やるべきことはやるという方針が変わった。そのような方針に対して、市がきちんと踏み込んだ取組ができていたのかという点について評価しないといけない。

(委員長) その点については、2～3行目で書かれている。令和3年度は、前年度の教訓を活かし、できることはするという方針が変わった取組項目もあった。ただし、この表現では、記述があっさりしすぎているという印象は受ける。

(副委員長) この文章では、コロナが蔓延し全てが中止された令和2年度のことと、収束後のことしか書かれていない。コロナの中で工夫した令和3年度のことについて、もう少し膨らませて記載してはどうか。

(委員長) コロナ禍により、初めて数値目標では表すことができないことに向き合った気がする。コロナ禍で市町村は事業者支援としてどのような取組をしたかという、国や県の支援の仕組みから漏れ落ちた小規模事業者やそれらの事業者を支えられている市民に対して何ができるかを考えて取り組んでいたように思う。その経験は、コロナが収束しても次に活かされる。コロナ禍により、自治体と地域の事業者の連帯が強まったと思う。

(委員) 令和2年度は会議等が全て中止になった。しかし、そのままではいけないという決意が生駒市にあったため、令和3年度はコロナ禍でもできる取組を考え取り組んだと思う。令和2年度も令和3年度も同じコロナ禍だが、一歩前へ踏み出そうという

決意のもと、できる手法を検討してきたと思うので、そういった表現を記載すべきだろう。なぜ実行できる手法を検討したのかという部分の説明を記載すべきではないか。

(委員) 分科会の評価の中でも、コロナ禍でも何が出来るかを考え実行したため、数値目標は達成していないが、良い評価をしたものがあった。そういった部分を記載してはどうか。最終的に達成できなかったかもしれないが、どうすれば乗り越えられるのかということは行政で考えていたと思う。

(委員長) 「～～見受けられた。数値目標に達成していなくても、様々な工夫を通じて、より達成に向けて取り組もうという姿勢も感じられた。しかし、その一方で、収束した際にもそういった経験を活かして今後もより質の高い行革が進むような取組を考え実行していくことが重要である。」といった書きぶりにはどうか。

(委員) この文章は、エキスだけ入っていて良く分からない。どういうことができどういったことができなかったのかをもう少し詳しく書くべきである。あくまでも行政改革の取組である。行政改革としてみたとき、財政、人事、事業の管理の3点が重要となるため、この3点について、令和3年度の取組はどうだったのかを評価すべきである。具体的に何をしたのか、ここに書いた方が良いのではないか。

(委員長) 典型的な事例を記載した方がよい。

(委員) 行政改革の観点として記載すべきである。なぜ令和2年度はできなかったのに令和3年度はできたのか、それによる効果はどうだったのかを書くべきである。できたこととできなかったことを正直に記載すれば良い。

(委員) そもそも職員数が減っている中、コロナ禍によりワクチン接種などの業務に職員を配置する必要があったため工夫して対応された。行政全体としてコロナ禍による制限の中で、各課が人や業務のやりくりをどのようにして行ったのかを記載してはどうか。

(委員) 令和2年度は何もできなかったが、その経験から何か学んでいると思う。それを活かして令和3年度は取り組んでいると思うので、その部分を記載してはどうか。

(委員) 1～3行目をもっと膨らまして記載すべきである。

(委員長) 例えば、商工観光課の企業誘致の取組について言えば、令和2年度は展示会自体が中止になった。しかし、令和3年度は感染に気を付けながら積極的にアピールをしに行っており、その結果、予定通りの誘致数を達成している。こういった取組が典型的である。こういった点を、あまり具体的になり過ぎないような形で記載してほしい。

(事務局) 令和元年度と令和2年度の評価では、個票に令和3年度の課題と今後の取組を記載する欄を設けていたが、コロナの影響については考えずに記載してもらった。しかし、結局令和3年度もコロナの影響を大きく受けることとなった。その中で工夫して取り組まれたものとそうでないものがある。例えば、図書館であれば、図書館をまちづくりの拠点とするという一貫した想いで取り組まれたため、コロナが広まる前も後も評価が高い。一方、デジタル化の推進やプロジェクトチームの形成につい

では、なぜデジタル化を進めるのか、なぜプロジェクトチームを作るのか、どのような方針のもとでやろうとしているのかが明確でなかった。これらの取組はコロナに関係ないものである。そういった取組とコロナの影響を受け、何とか頑張ろうと工夫したものとしなかったもので評価に差が生まれたように思う。

(委員長) コロナの影響を受ける取組とそうでない取組がある。また、影響を受けるものの中で、努力したものとしなかったものに分かれた。この文章にはコロナの影響を受けたものだけ書かれている。きちんと総括しようと思うと、4つの類型それぞれについて評価を記載した方が良いかもしれない。

(副委員長) 情報発信の取組は、コロナ禍により情報の必要性が高まり、そこに行政が対応した事例である。

(委員長) もう少し丁寧に記述してみしてほしい。また、数値目標も大事だが、数値目標以外にも様々な工夫があったということも書いてほしい。本来行政は、数値目標のために業務を行うのではなく、市民生活のために取り組んでいると思う。その他の意見についてはどうか。数値目標を追求し過ぎたがために、行き過ぎた取組となっていたものはなかったか。

(副委員長) 分科会②ではそういった取組はなかった。

(委員長) 34ページについて、意見はあるか。

(委員) 「コロナ禍により取組が計画通り進捗しなかった」とあるが、コロナ禍でなければ財政効果額は増えたということか。

(事務局) コロナ禍により人件費が大幅に増えているため、コロナ禍でなければ財政効果額は増えていると考えられる。

(委員) しかし、コロナ禍によって、国からの支援があったはずである。マイナスの面ばかり強調しているが、交付金などのプラス面もあったはずなのに、その点が書かれていないのではないか。

(事務局) 1億200万円の効果額は行政改革の取組による結果であり、その中に交付金は含まれない。交付金については、2段落目以降に記載している。国庫支出金が増えたこと、市税が落ちなかったことから、市の財政状況としては、令和3年度は31億円の黒字となった。

(委員) コロナ禍により、予算編成時に市税収入を減らしている。減らしたが、最終的に前年度から大きく減らなかったという点を記載しておく必要があるのではないか。

(委員) コロナ禍による歳入があるはずなのにその部分を比較しないとおかしいのではないか。素人が見ると分かりにくい。

(副委員長) 行政改革だけの総括として約1億200万円の財政効果額が出ているが十分とは言えない。ただし、コロナ禍の影響により、行政改革の成果が出せない分野があったという断りを入れる。その上で、財政収支について記載してはどうか。行政改革の総括と財政収支のことをきちんと分けて書いた方が分かりやすいのではないか。

(委員) 1億200万円の財政効果額は28項目の成果ということか。

(事務局) そのとおりである。

- (委員) 28項目だけでなく、本来の行政改革の取組としてどれだけの効果があったのかという部分もあると思う。28項目については行政改革の取組の一部を例示しているだけである。また、31億円の実質収支がある中で、何のために行政改革をするのかという話もある。行政改革と実質収支31億円の関係を説明しておかないと行政改革は必要ないということになってしまう。
- (委員長) コロナ禍により、多くの市町村で実質収支が黒字になったが、一時的なものである。今後締め付けがきつくなることは目に見えている。そのため、行政改革の取組は引き続き必要であるということが、最後に書かれている。
- (委員) 市民がみると、これだけ実質収支が出ているのであれば行政改革は必要ないと思ってしまう。令和3年度は執行率が92%となっている。決算書等を見ても、なぜこれだけ執行率が低いのかの説明がない。
- (委員) コロナ禍により、ワクチン接種等に臨時的な業務により人件費を減らすことができなかった。ワクチン接種等の業務は必要なものなので、コロナ禍で財政効果額を増やせなかったというのは書き方としておかしいのではないか。
- (事務局) しかし、個票ではコロナ禍により目標を達成できなかったという評価をしていたので、それを総括にも記載した。
- (委員長) 財政効果額に対して、コロナ禍がマイナスの影響を与えたのはその通りであるが、この書き方ではそれが悪いことのように見られる。例えば、財政効果は不十分だった。ただし、想定外のコロナ禍で市民生活を守るために当然必要となる人件費の措置が発生し、歳出を増加せざるを得なかったことも確かである。その結果として1億200万円の財政効果額となったと書いてはどうか。28項目での財政効果額は約1億円だが、市全体として、行政改革に取り組まなければならないというカルチャーや文化は作り出せているのではないかと思う。市の各部局に財政が厳しいという考えが浸透していていると思う。そういったことが2段落目に書かれているので、その部分を強調して記載した方が良いのではないか。
- (委員) 市町村や県は収入をどう増やして支出をどう減らすかをとてもよく考え努力している。シーリングをかけて査定をして、執行するときも厳しい目で見ている。そういった点を記載してはどうか。
- (委員長) 前市長の時代から入札改革や補助金の見直しに取り組んだことで、行政改革の意識が浸透していったと思う。
- (委員) 努力はきちんと記載し、知ってもらうことが必要である。単にコロナ禍により交付金が増えたから増収になっただけではない。
- (委員長) 上段部分について、論理は良いが、書き方をもう少し工夫してほしい。
- (委員) 10億円の財政効果額が28項目の結果ということが分からないので、そこをきちんと説明すべきである。
- (委員長) その他の意見については何かあるか。上段をしっかりと書くことでその他の意見はこれで良いか。
- (副委員長) その他の意見の1項目は4ページにも記載されている。

- (委員長) 削除して、4ページへ組み込む。
- (事務局) 先ほど委員長がおっしゃっていた、職員の意識が変わってきたということについても記載するか。厳しい財政状況の中で、やはり職員一人一人が行政改革の意識を持って仕事に挑んでいると思う。
- (委員長) 追記すべきである。
- (事務局) 次年度の評価についてだが、今年度の評価の中で、数字だけでは分からない部分があり、定性的な部分をきちんと書いてほしいという意見や数値目標に直結しない取組もしているのであれば分かるように記載してほしいという意見があったと思う。そういった点も記載した方が良いか。
- (委員長) その方が良い。
- (副委員長) 職員の意識もだが、住民の意識にも何らかの影響を与えている。そういった部分を今後どのように評価していくのが難しい。
- (委員長) そういった取組についてもきちんと担当課に記載してもらってはどうか。
- (委員) 分科会の最初に何を評価するのかという点について議論になった。令和3年度を取組だけを評価するのなら良いが、取組内容全体を評価するとなると情報が足りない。同じことの繰り返しにならないようにきちんと整理してほしい。何を評価するのかという点を明確にしてほしい。
- (委員長) 取組実績の欄に、多様な取組を記載してもらいたい。数値目標で現れない実績を評価するためにも情報をきちんと書いてほしい。
- (委員) 7ページで言えば、どれだけ市税を収納できたのかが最も重要である。様々な取組をしているということだけではなく、その結果どうだったのかということまで記載してほしい。いろいろ取り組んでいることは分かるが、それらの実績や効果がどうだったのかがはっきりしない取組が多かったように思う。
- (委員長) 例えばプロジェクトチームについても、そのプロジェクトチームが何のために作られたのか、その効果は何なのかということを明確に記載する必要がある。
- (委員) 外部評価を求めるのであれば、それぐらいの説明は必要である。
- (事務局) 次年度はこれらの意見を踏まえて担当課に記入を依頼する。
- (委員長) 事務局で修正いただき、委員長と事務局で最終調整したものを各委員に確認いただく。最終の取扱いは事務局と委員長に一任いただきたい。
- (各委員) 了承

その他

- (事務局) 第4回会議について令和5年1月に開催予定である。後日、日程調整させていただきたい。

閉会